

田原坂

年刊  
Tabaruzaka  
Vol. 2

田原坂

特集

熊本市田原坂西南戦争資料館

「展示の裏側」

ちょびっと見せます、

見どころの御案内

こだわり満載の  
映像制作秘話

雨は降る降る じんばは濡れる  
越すに越されぬ 田原坂



新しく生きよう。

NEO ONE  
KUMAMOTO

熊本市  
**田原坂西南戦争資料館**

KUMAMOTO CITY TABARUZAKA SEINAN CIVIL WAR MUSEUM

～西南戦争の記憶を今に伝える～

**西南戦争とは**、旧薩摩藩士を中心とする士族が、明治新政府の専制的な政治に反対して起こした国内最後の内戦で、明治維新の総上げであった。

幕末維新时期、武士の棟梁江戸幕府を倒して新しい時代を作ったのは、同じ武士たちだった。しかし、明治時代になると元武士たちは冷遇される。その理由は大きく経済的なものと武力の扱い手の問題だつた。明治新政府は急速に近代化を進め、世の中の仕組みを大きく変えた。徵兵令、廃刀令、秩禄処分などは新政府に必要だったが、士族たちは不満を増大させ、ついに破裂する。



上 彦斎

熊本市出身の攘夷志士。幕末四大人斬りの一人、佐久間象山を斬った。漫画「るろうに剣心」モチーフの一人。

剣のみならず和歌の素養も深く、文武に秀でた傑で大将の器と言われた。明治四年処刑、38歳。

1877(明治10)年2月19日、西郷隆盛率いる薩摩軍に征討令が出された。ここに戦争が始まり、同年9月24日鹿児島城山での西郷の自刃で幕を下ろした。約7か月に及ぶ戦いは、熊本、大分、宮崎、鹿児島のほか九州全域にまたがり、薩摩軍3万人、政府軍6万人が動員され、約1万4千人の若者が命を落とした。大勢の住民も甚大な被害を受けた。この戦争は小銃や大砲を中心とする本格的な近代戦で、物量、情報伝達、物資輸送の点で勝る政府軍が勝利した。

西南戦争は数百年続いた武士の時代の終わりを告げ、近代国家確立の礎となつた戦いとして、日本の歴史の大きな転換点に位置づけられる重要な戦争である。

**熊本市田原坂西南戦争資料館**は、平成21年度の植木町田原坂資料館改築事業其本構想から始まり、22年度植木町田原坂資料館改築基本計画、23年度基本計画詳細検討・展示基本設計、24・25年度には敷地内に所在する舟底遺跡の発掘調査、旧社会福祉会館の取り壊しなどを経て、25年度展示実施設計・建築基本実施設計、26年度建築、26・27年度展示制作と進み27年3月に建物が完成した。

そして、足掛け7年の歳月をかけて、2015(平成27)年11月15日に開館した。場所は田原坂公園の中にあり、建築面積は日館の約2倍の約700m<sup>2</sup>。近代日本

の夜明けを学び伝える歴史学習施設として、国内最後の内戦である西南戦争に至る経緯や時代背景、戦いの様子などについての資料を展示する。展示室はつづら折の山路のように変化に富んだつくりになつていて、前には展望デッキがあり、古戦場全体を見渡すことができ、春夏秋冬の大パノラマが来訪者をもてなしてくれる。この資料館は館単体で完結するものではなく、周辺一帯に広がる田原坂古戦場と一体となつて、はじめてその機能を十分に發揮する。西南戦争の記憶と記録を保存し保管して展示し、未来へつなぐ資料館である。



**建物** 田原坂の坂をモチーフにした建物で、横から見ると屋根は斜めで、真上から見るとらせんである。色は農家の土蔵をイメージした。



表紙は薩摩軍少年兵の山口雄吾（田原坂の美少年イメージキャラクター）。左頬の傷は田原坂での緒戦でついたもの。この戦いぶりが気に入られ、小隊長クラスしか持てないウエストリー・リチャーズ騎兵銃を与えられた。得意げな表情もこの直後の戦いで一変する。（画：櫻木成香）

アプローチ展示室

卷之三



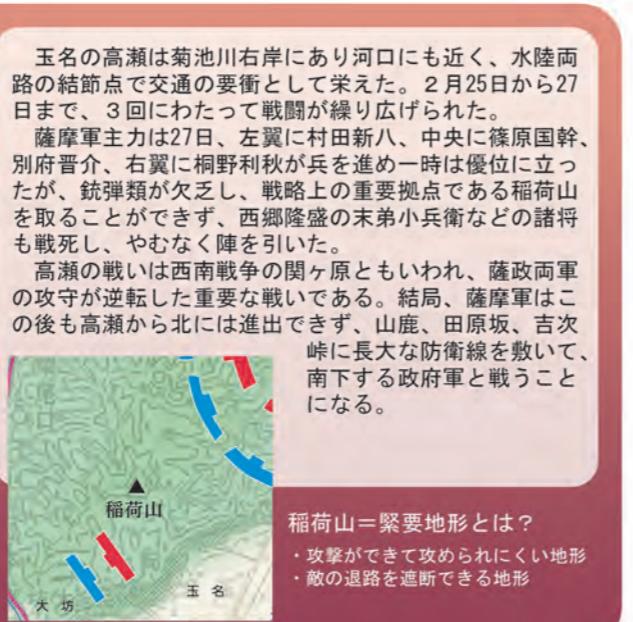
▲入口より

奥に熊本城の古写真がみえる。展示室は先が狭くなる。これは遠近効果を高めるためで、政府軍、薩摩軍がともに目指した熊本城を意識するための工夫である。



### ▲右に折れたところ

突き当りには田原坂の戦いで両軍の動きをアニメーションにして、立体模型に投影した映像がある。ここでは爆発音も聞こえる。



左壁には、幕末から西南戦争に至るまでを時代毎に追った写真、錦絵、解説文などで構成される極彩色の巨大な壁画年表がある。江戸時代は青色、穏やかで戦乱がなかった時代。変動の幕末期は紫色。明治時代は赤色、西洋文明が激しく流入し世の中が大きく変化した激動の時代。そして、西南戦争勃発、灰燼に帰したモノトーンの世界。錦絵や写真を見比べるだけでも、江戸時代と明治時代で大きく変化したことがわかる構成にした。重要な事柄には説明文をつけ、中央の四角形は士族の不満が増大するさまを表した。右壁は静かな白黒の世界である。ここでは

「熊本の西南戦争」として熊本に関連する資料を主に展示する。横井小楠、宮部鼎蔵、河上彦斎など熊本の幕末維新期に活躍した人物や神風連の変の関連資料などがある。あるいは左壁年表に登場する関連实物資料などを展示する。

2月19日に熊本城は炎上した。展示ケースに熊本城関連資料、床面に薩摩軍に包囲された籠城戦の両軍の配置図を置いた。

熊本城の展示を右に折ると、田原坂の戦いに至るまでの各地の主要な戦闘経過を、時間の流れに沿って示した。城北地域の緒戦の向坂・木葉の戦い、西南戦争の関ヶ原といわれる高瀬の戦い、地獄峠攻防戦の吉次峠の戦いにおける両軍の陣形図を示す。

右壁は熊本城籠城中の最大の激戦、段山の戦いを描いた「段山激戦図」を約7倍に拡大したもの。細かな部分まで正確に描き込まれていて見応えがある。分かり易くするため、主要部分を引き出して説明を加えた。

# 体感展示室

FEELING EXHIBITION ROOM

体感展示は、田原坂の戦いで激戦「宮山争奪戦」の舞台となつた熊野座神社での調査成果を基に制作した。映像もこの神社で撮影した。薩摩軍陣地をイメージしたジオラマと大砲の着弾音や振動、小銃弾の飛来音、戦闘の再現映像などがある。と考えられ、政府軍は盛んに攻撃した。付近での戦闘は薩摩軍兵士の記録にもあり、陣地は「田原坂北

之手松山台場」などと呼ばれていた。調査で数多くの小銃弾などが見つかり、詳細で個別具体的な戦闘状況がわかりつつある。熊野座神社は資料館から北に歩いて10分ほどの距離にあり、当時の戦場を今に残す貴重な場所である。現地に足を運び、雰囲気を実感されてはいかがだらうか。



■ こだわりポイント  
・地元の人たちと一緒にになって、映像を作ったこと。  
・実際の土地にこだわって、本物を追求したこと。  
・実物資料を基にしたジオラマを作ったこと。  
・CGを使わずに爆発や戦闘シーンを再現したこと。



立てかけられた刀は柄の長い薩摩財部與之進の「敵ノ銃丸付近での「敵ノ銃丸」との設定である。豆ガ我々ノ頭ニバラガ台場ニ來タル毎ニバラト当タリタリ」の持主は重傷で川の記述に基づく。手帖は薩摩軍第五大隊五番小隊押伍の有馬隊員之介の手帖をもとに再現した。

■ こだわりポイント  
・スナイドル銃は、赤い薬椿は熊野座穴とどこから飛んできた弾薬箱。周辺おり、実際にスナイドル銃の銃弾実包へ複製)の十発包が22個×2列で440包入る。スナイドル銃の銃弾実包には写されている。



豆は、薩摩軍財部と並んで、小銃はエンフィード式、小銃はエンドルド銃模造)。刀刃の持主は重傷で川の記述に基づく。手帖は薩摩軍第五大隊五番小隊押伍の有馬隊員之介の手帖をもとに再現した。

■ こだわりポイント  
・未使用弾などが散乱する。田原坂や山頭遺跡出土遺物を参考にして作成し、出土状況も加味してジオラマの中配置した。



食事中に戦闘が始まつた。食べかけの餅やタクアン、薬莢、未使用弾などが散乱する。茶碗は鮮やかな藍色で印判染付の端反碗。昔の茶碗には蓋がついていた。

▶両軍の装備比較  
右が薩摩軍、左が政府軍。両軍ともスナイドル銃を持つ。桐野利秋、村田新八などは約180cmだったらしい。対する政府軍は身長160~170cm前後の兵士多かった。

▶腹がへっては戦はできぬ  
戦場での食事は握り飯が主体で、基本は一日四食。おかずは煮しめなど。質素だが量が多い。政府軍では時折、牛肉の缶詰が支給された。指揮官は旗を持つ。政府軍は洋式軍服で統一され、士官はラシャの通称肋骨服、兵卒は木綿の小倉服である。

▶発掘調査の成果  
調査では千点をこえる小銃弾や薬莢、四斤砲弾片などが見つかった。薬莢の集中地点が確認され、文献も参考にして、東が薩摩の人々は背が高く、西郷隆盛や桐野利秋、村田新八などは約180cmだったらしい。対する政府軍は身長160~170cm前後の兵士多かった。

■ 演出者  
・雨の演出  
・音響  
・小銃の発砲音は本物の小銃の発砲音を、世界中の地元の農家、消防団、青年団、大学生、市役所職員などの素人ばかり。プロは2人だけです。わずか2日間で迫真的演技。出来映えにプロもびっくり。  
・CGを使わずに爆発や戦闘シーンを再現したこと。  
・「タンクトンプ」ではなく、「タンクトンプ」です。それがヨカタイ!すべてうまくいきました。結果は映像をご覧あれ。



## 撮影秘話 その一

撮影秘話 その一

# 検証・継承展示室

検証展示では体感展示からのつながりも考え、テーマを「戦争の実際」として西南戦争の全體像や戦場での生活・衣服・食料や人の思い、その人となりを記した手紙などを、実際に戦場で戦った人々を浮き彫りにする

展示構成とした。継承展示では博愛社と日本赤十字社や国際赤十字社との関係などについて展示し、西南戦争を未来に語りつないでいく。

二俣台に散った熊本新屋敷出身の内田武宗大尉の資料には、人に慕われていたことや愛娘潤子を大層可愛がつたこと、妻お鶴にあてた手紙などがある。

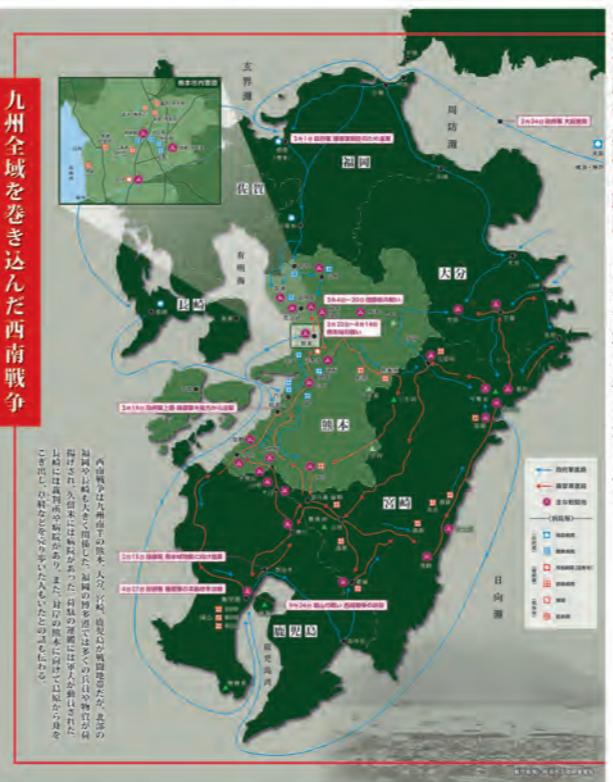


▲西南戦争激戦の軌跡 九州全域が巻き込まれた



明治十年前に撮影された写真を集めた。写真をお持ちの方はご一報を。

▲西南戦争関係人物写真



▲西南戦争を顕彰する

薩摩軍関係者

政府軍関係者

薩摩軍をかくまつた

頭上より砲弾が落ちる

傷を縫う

薩摩軍にかたることにきめたが

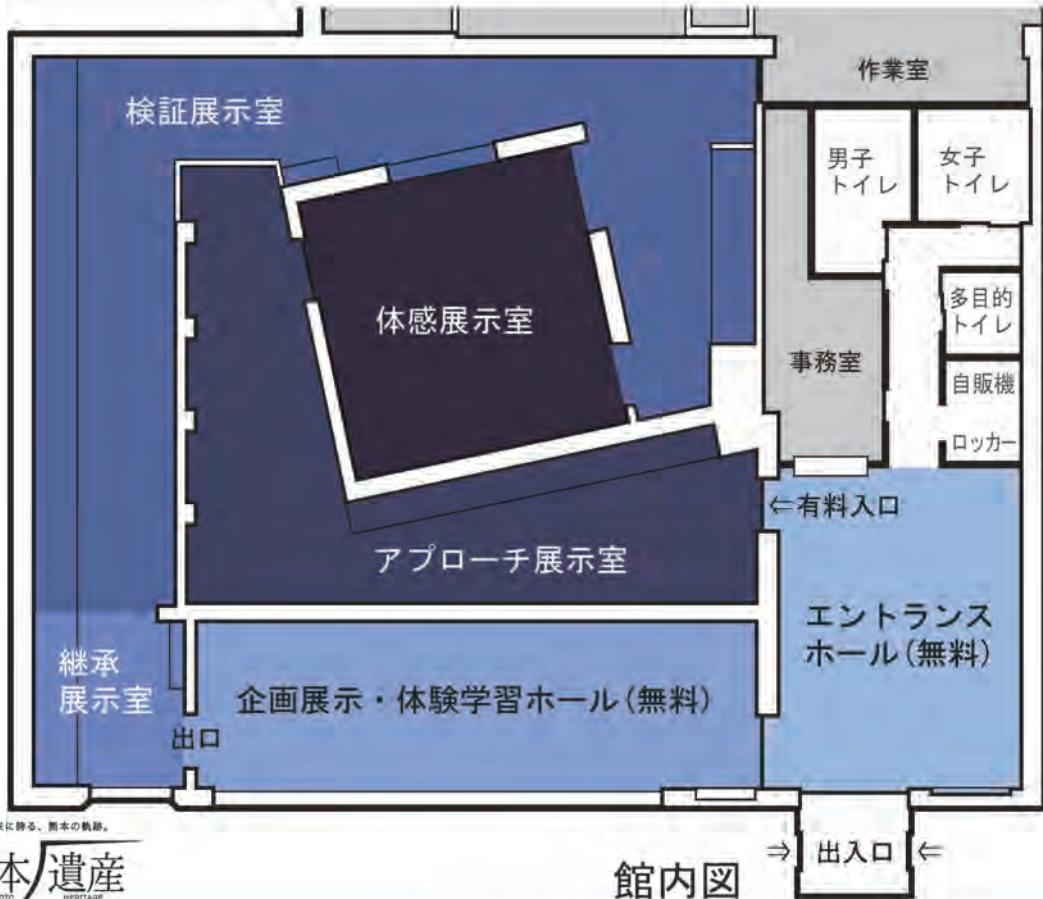
薩摩軍をかくまつた

頭上より砲弾が落ちる



未来に傳る、熊本の軌跡。

KUMAMOTO  
HERITAGE



## 利用案内

■開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで) ■休館日 12月29日から翌年1月3日まで

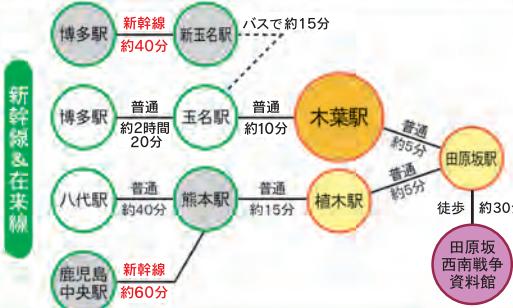
■入館料 一般(高校生以上)個人300円 団体(20名以上)240円  
小・中学生 個人100円 团体(20名以上)80円

ただし乳幼児、障害者手帳をお持ちの方、熊本市・鹿児島市・福岡市・北九州市に居住する65歳以上の方(証明できるものを提示)と同市内の小・中学生(名札か生徒手帳提示)等の入場は無料です。

## 交通案内

2022年7月訂正

### JRをご利用の場合



### 自動車をご利用の場合



## お問い合わせ

### 熊本市文化財課植木分室

〒861-0195 熊本市北区植木町岩野238番地1

☎ 096-272-0551

### 熊本市田原坂西南戦争資料館

〒861-0163 熊本市北区植木町豊岡858番地1

☎ 096-272-4982

